

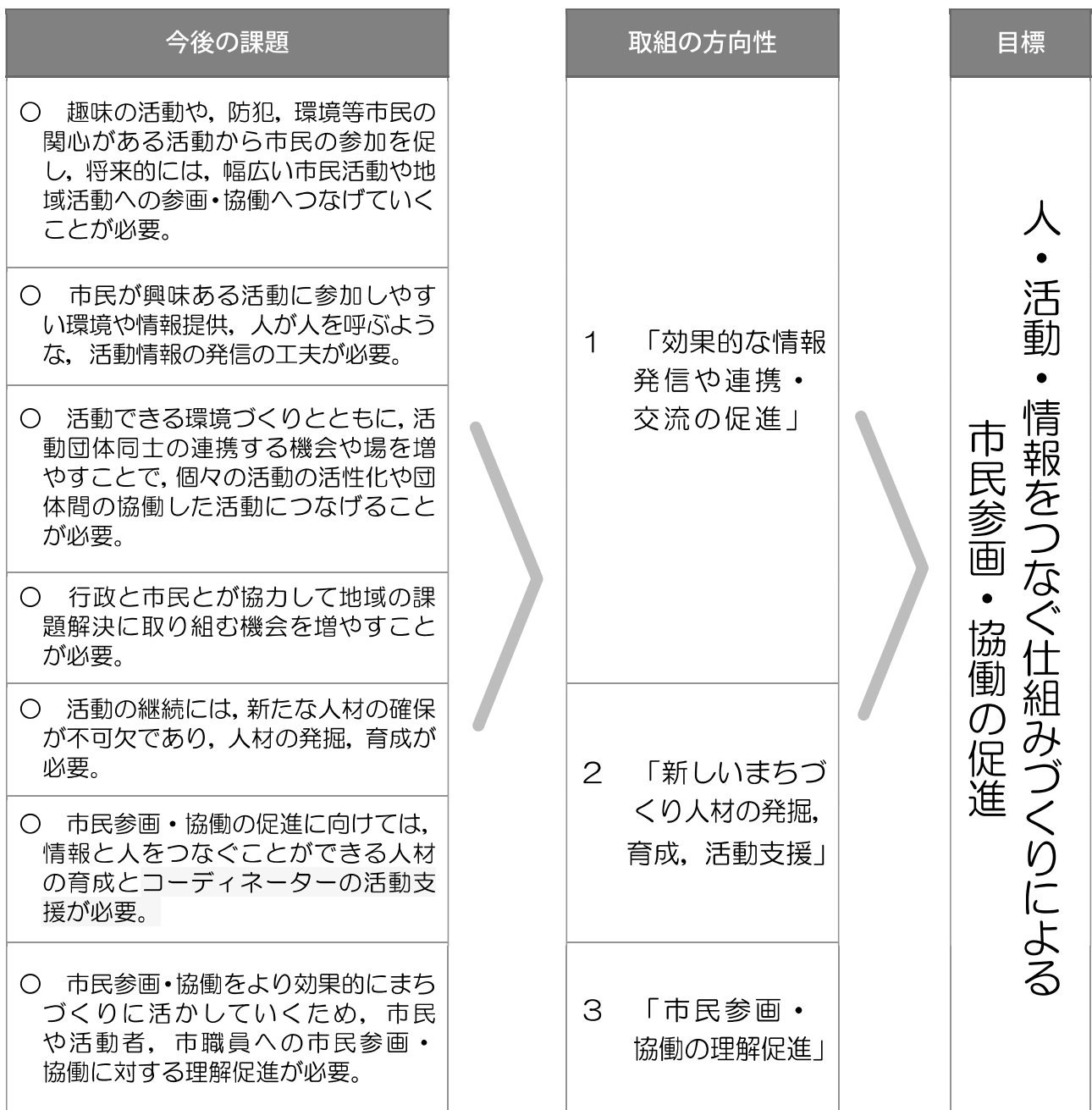
第 3 章

芦屋市の市民参画・協働の現状から目標に至る分析

1 芦屋市の市民参画・協働の現状から目標に至る分析のまとめ

各種アンケート調査結果や芦屋市の現在の取組などから、本市において充実していること【強み】、そして問題となっていること【弱み】、国等の動向や社会的背景及び社会的な問題【外的要因】を整理し、取組の方向性、目標を設定しました。

区分	現 状
強み	<ul style="list-style-type: none"> 70%を超える市民が地域に対して関心があり、自分が暮らす地域に関心がある市民が多くいる。(市民アンケート) 身近な生活の中では、「防犯」「環境」の関心が高く、参加したい興味がある活動では「スポーツ」「健康・福祉」の割合が高くなっている。(市民アンケート) 市民参画・協働の取組については、地域と協働し、複雑な課題に対する解決策を検討する場や公共施設を効果的に活用する地域との連携事業等、新たな取組も各種展開している。(事業評価) 市民の市民参画・協働が必要であるという認識も高く、個別地域の課題解決や多様な市民ニーズへの対応、市民や行政単独では解決が難しい問題等の解決手段として、市民参画・協働が必要とされている。(市民アンケート)
弱み	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動や地域活動に対する市民の意識は高まってきているが、50%以上の市民が地域の活動に参加しておらず、活動団体への所属率も低い。(市民アンケート) 市民の約30~40%の人が地域で活動を行う機会・場所や活動の参加者不足を感じている。(市民アンケート) 若い世代の参加が少ないことが大きな課題となっている。(市民活動団体の交流会) 市民活動や地域活動の活性化のためには、情報提供が課題となっている。(市民活動団体の交流会) 活動団体間での情報共有が不十分。(市民活動団体の交流会) 市民参画・協働に対する理解を深め、人材が育つようにするためには、「さまざまな情報や人を結びつけ、取りまとめることのできるコーディネータを身につけること」があげられている。(職員アンケート) 市民参画・協働が進むためには、市民と市職員が気軽に話し合える関係性・場をもつことが必要とあげられている。(総合計画ワークショップ)
外的要因	<ul style="list-style-type: none"> 困難な課題の解決を図るために、行政だけでは超えられない壁を市民とともに解決していくという視点がより一層重要となっている。 働き方改革の推進。 人生100年時代の到来。 全国的に進展する人口減少や少子高齢化による人口構造の変化。 核家族化や共働き世帯の増加。 一人一人の価値観の多様化等に伴う市民のライフスタイルの変化。 社会課題の多様化・複雑化と社会課題領域の広がりに伴う行政サービス拡充ニーズの高まり。



2 計画の目標

『第2次芦屋市市民参画協働推進計画』では、基本理念である「市民参画・協働による住みよいまちづくり」の実現を目指し、市民がより主体的に市民参画・協働に取り組むことを重視し、芦屋市に住む人、働く人、学ぶ人も気軽に地域活動や社会活動に関われるまち、若者から高齢者までその力を発揮できるまちを目指してきました。

芦屋市の市民参画・協働の現状としては、市民活動や地域活動に対する市民の意識は高く、市民参画・協働の取組は進んできていますが、効果的な情報発信や連携・交流の促進、新しいまちづくりを担う人材の発掘、育成、さらに市民や市職員も含めた市民参画・協働の理解促進についての課題があげられています。

これらを踏まえ、本計画では、市民参画・協働の発展、推進に向けて、人・活動・情報をつなぐ仕組みの構築を目指す中で、市民参画・協働を生み出す仕組みをデザインし、新たな取組へのチャレンジとそのプロセスの見直しを繰り返すことで、市民の力を引き出すより良い市民参画・協働を実現し、満足度の高いまちづくりにつなげていきます。また、本計画の期間中に、人口減少等に起因する諸課題が徐々に顕在化することが想定されることから、持続可能な行政運営にも効果的な市民参画・協働の促進を目指します。

【目 標】

人・活動・情報をつなぐ仕組みづくりによる 市民参画・協働の促進

